

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年11月14日

【評価実施概要】

事業所番号	1173700236
法人名	株式会社 メデカジャパン
事業所名	行田ケアセンターそよ風
所在地	361-0076 埼玉県行田市天満8-29 (電話) 048-564-3701

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年11月15日

【情報提供票より】(平成19年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	14 人	常勤 7 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	11.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての2階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	15,000円 + 実費	
敷金	有(100,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,400 円			

(4) 利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	15 名	男性	5 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.4 歳	最低	72 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	行田中央総合病院、齋藤歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの前には広い公園があり、四季折々の自然が楽しめる。ホーム近隣にはコミュニティセンターや産業会館があり、また新しい住宅が建ち並び、住みやすい環境である。ホーム設立後7年目を迎えたため、入居している方もゆったりと落ち着いて生活されている様子である。職員も一人ひとりのニーズを把握し、落ち着いて支援をしている。同じ建物内のデイサービスの行事にも必要に応じて参加するなど、ハード・ソフト両面においてサービスが充実しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価結果をふまえ、運営理念を家族・職員間で充分理解されるように改善した。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を作成するにあたって、現在のサービスの良い点、悪い点について、職員間で具体的に話し合い、自己評価を今後の支援に生かしていこうとする姿勢を持っている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議を平成19年9月に開催し、参加メンバーから出た意見により、現在のサービスについて、ホーム自身では気付かないことを知ることができた。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見は意見箱を設置したり、来所時のヒアリングで受け止め、家族会や家族と個別に話し合うことで、家族の意見を事業の運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>小学生のボランティアの受け入れや、保育園の運動会に参加するなど、地域との交流を深めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念、介護サービスの基本方針、品質方針を玄関に掲げ、来所者にも判るようにしてあるが、事業所独自の理念が明確でない。		母体組織の理念そのままではなく、地域密着型サービスとして何が大切かを事業所で考え、事業所独自の理念をつくり上げることを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼で理念を確認し、職員間で共有して、利用者の自立を支援する取り組みを行っている。また、職員一人ひとりに理念のコピーを渡して、介護中も理念を常に意識するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学生のボランティアの受け入れや、保育園の運動会に参加するなど、地域との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を作成するに当たって、現在のサービスの良い点、悪い点について、職員間で具体的に話し合い、自己評価を今後の支援に生かしていこうとする姿勢を持っている。また、前回の外部評価結果を、職員や家族間で十分に話し合い、サービスの向上につなげている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回目の運営推進会議を平成19年9月に開催した。参加メンバーは自治会、民生委員などで構成されている。		開かれたホームづくりのため、利用者家族会に運営推進会議への参加を働きかけることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者との交流する機会はほとんどない。		ホームの支援方法や、地域でのホームのあり方について、市や地域包括支援センター、在宅介護支援センターに相談したり、地域ケア会議に参加することにより、日頃から市と連携し、サービスの質を向上することを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来所時や、月1回のホーム便りの発送時に、利用者の日頃の様子を伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や家族会を設置し、出された意見についてはホームの運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者がほぼ1年で代わっており、職員の交替時の利用者への配慮も見られない。		職員の異動・退職は利用者を不安にし、不穏につながるため、退職の要因などを把握し、必要に応じて対応策の検討が期待される。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社が主催する研修、法人内のデイサービス、ショートステイへの派遣研修に取り組んでいる。また、研修を受講するために取得できる休暇制度もあり、職員の能力や経験に応じた段階的な研修受講体制がある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は同業者と十分に交流していない。		今後同業者とのネットワークづくりをして、情報交換し、サービスの向上に取り組んでいくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームへの見学や2日程度の体験入居により、利用者に入居について納得してもらってから入居に繋げている。受け入れの可否は職員からの意見も踏まえて決めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は地元の人が多いので、この地の特産品の作り方の話を聞いたり、農産物の話をしたりする。利用者は食後必ず下膳の手伝いをしている。訪問調査時には、職員が日記を書いている利用者として、この日は「何があったでしょうかね」といった会話がなされる場面もあり、利用者の日々の生活を大切にしている様子が伺えた。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを取る機会を確保したり、カンファレンスを開いて各人の希望を把握している。新しいアセスメント方式を今年から取り入れ、本人の希望、意見を確実に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時や面会時に、家族から聞き取った希望を介護計画に反映させている。月1回のカンファレンスで、職員間で話し合い、介護支援専門員が中心となって介護計画が作成されている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しをしているが、利用者の状態に変化があったときは、職員、家族等の意見を聞いてそのつど見直しをしている。なお、利用者の状態については毎日のミーティングやユニット会議で確認される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望や状況に応じ、通院介助等柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	平成19年度から内科医が月1回の往診をしている。往診やホーム提携医以外のかかりつけ医を希望する場合は、家族が同行して受診しているが、家族が同行出来ないときは職員が同行している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで対応できること、できないことについては、折に触れて家族と話し合いの機会を設けている。入居の時に重度化や終末期に対するホームの方針を説明し、本人の状況に応じて早めに転所や入院ができるように相談している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ介助や更衣、食べこぼしの時には一人ひとりに声かけて、利用者に羞恥心を抱かせないようにしている。個別の記録等の取扱いには、職員全体で気をつけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食後のお昼寝タイムや夕食後の過ごし方は、本人の希望を聞き、希望に添った生活ができるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは2種類から選択できるようにしている。季節のものを食材に取り入れ、美味しく食べることが出来るように工夫している。お粥の人もいる。テレビを消して、会話が弾むような環境をつくったり、職員も一緒に食事をして、楽しく食事できるように配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間は決まっているが、体調不良の時には清拭をしたり、入浴拒否の方には「お薬を塗りましょう」と声を掛けるなどし、入浴に誘ったりしている。		朝風呂や夜間入浴等、本人のこれまでの生活習慣や希望に合わせて入浴できるよう、職員ローテーションの工夫をされることを期待する。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の役割として、掃除、洗濯物たたみ、水やり、草取り等利用者が自分で出来ることを支援している。役割を依頼する際には、一人ひとりの得意なことや生活歴を生かせるように配慮している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など利用者の希望に添った外出支援をしており、外出の機会が多い。訪問調査当日も外出していた。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には施錠していないが、居室が二階のためフロア - 入り口部分は施錠している。		建物1階がデイスーパーになっているため人の出入りが多く、利用者の徘徊など鍵の開放には慎重にならなければいけない状況ではあるが、利用者が圧迫感を感じないケアについて、今後、職員全体で話し合われることを期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て定期的な防災訓練も行っているが、地域住民との協力体制は不十分である。備蓄の食品はない。		事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を実施することを期待する。また、災害に備えて、食料や飲料水等の物品等を準備しておくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーに配慮した常食、粥、ミキサー、とろみづけ等、その人の食形態にあった食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下も広く、軽い散歩もできる程のスペースを確保している。食後など、ソファでゆったりとくつろげるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室も広く、畳やベッドなど各人に対応した部屋に、好みの調度品が置かれ、過ごしやすく工夫されている。		